

## 題材名

### さくら学級(知的障害学級)

#### 「相手の気持ちを想像しよう」(自立活動)

戸田 正子

#### 1 身に付けさせたい力を習得できたか

友達と仲良くすることを大事にして、役割演技を通して、困ったときにやさしく言われると気持ちよいことに気づき、人が困った場面で自分からやさしく言おうとする意欲を高めることができる。

役割演技を通して、非難された時と優しい言葉をかけられた時の気持ちの違いを、全員が感じ取れていた。しかし、それを文や言葉で表現しようとする、なかなかできない児童が2名いた。

導入時に教師によるモデリングがあったことで、児童は本時の見通しがもてた。児童同士が役割演技を行ったことも良かった。二つの立場の気持ちを実感することができ、話し合いのきっかけとなった。

児童の言葉を生かしてねらいを設定したことはよかったが、教師が本来ねらっていた内容がぶれてしまった。「相手の気持ちを想像すること」ではなく、「やさしくすることが大切」をねらっているようになった。しかし、まとめの段階では、「相手の気持ちを・・・」としてしまったので、一貫性がなくなった。変更するのであれば、まとめまで変更するべきであった。

また、自立活動の授業であるので、気持ちを考えさせるよりも、「どんな言い方をすればよいだろう」のように問いかけ、スキルを身に付けさせるようにした方がよかった。

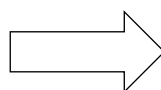


#### 2 かかり合いで考えの広がりや深まりがあったか

##### ☆このような子どもに

- A 「手伝ってあげる」「大丈夫だよ」など、掛けてあげる言葉を、いくつか思いつく
- B 「どうしたの」など、一つ思いつく
- C 思いつかない

##### かかり合い



##### ☆このような姿になるだろう

- A 自分の考えに自信を持つ
- B 他の言葉掛けがあったことに気付く。
- C 自分の考えを持つ

役割演技をさせたことが有効であった。決まった台詞というわけではないが、児童は黒板に書かれた台詞を見ながら演技していたので、自信をもって表現できていた。また、実際に演技してみることで、言われたときの気持ちを実感することができ、短い言葉の児童もいたが、全員が自分の気持ちをワークシートに書いたり、発表したりすることができた。普段、自分の気持ちを表現することを苦手としている児童が発言できたことは、児童同士が関わり合って役割演技をさせたことが有効であったと言える。

一人では自信をもって発言ができなかった児童に、他の児童とペアにして発言させるという手立てもよかった。

今後、より話し合いを深めていくために、発言するだけでなく、友達の考えにうなずいたり、自分の考えと比べながら聞いて反応したりできるようになるとよい。これから練習させていきたい。

### 3 書くこと・その他有効であると思われたこと

ワークシートの使い方が有効だった。書くことに抵抗がある児童がいるので、ますのない大きめの枠にした。また、記入させるとき教師は、なるべく声を出さないようにして、書くための時間を確保した。字の形や枠からはみ出すことなどに言及すると萎縮して書けなくなる児童がいるので、それらについても何も言わずに進めた。児童は、あせらずに落ち着いて書くことができた。



黒板に台詞や感想が書いてあったことも、役割演技をしたり、ワークシートにまとめを書いたりするときの助けとなっていた。

しかし、二つの立場での感想を、覚えさせておいて後で発表させようとしたことや、大きな音のするバケツを使ってしまったことなど、児童の実態を考えると無理があったり、苦痛に感じさせたりしてしまったように思える。

児童の実態をしっかり見極め、一人一人に合った支援や対応をすることの大切さを実感した。

